

教員紹介

人間文化専攻

» 教員データベース



石川 裕之 教授

研究分野 教育学

研究テーマ 専門は韓国をフィールドとした比較教育学で、才能教育と高等教育をメインテーマとしている

特定分野・領域で突出した才能を見せる子どもの能力や適性に応じた教育機会を提供しようという取り組みが才能教育です。才能教育の難しさは、学校教育における平等性や一定の共通性を確保しつつ個別の子どもの才能に対応していくかという点です。そのためのプログラム開発、進級・進学システム改革、教員養成・研修制度の確立などについて、韓国を事例に研究を進めています。

〈主な著書・論文〉

単著『韓国の才能教育制度－その構造と機能－』（東信堂）ほか

岩崎 れい 教授

研究分野 図書館情報学

研究テーマ

読書支援は乳幼児期からの発達段階との関わりを中心に、学習支援はInformation Process Model と日本の学校教育とのカリキュラムとの関わりを中心に研究

大学院では、主に学校図書館分野を中心に扱っています。図書館分野は現場との関わりが不可欠ですが、同時に学問的な土台がないと研究として成立しません。今までの大学院生には、理論面からアプローチをする院生と実践面からアプローチをする院生の両方がいましたが、いずれも片方だけで成立するものではなく、必ず両面を押さえながら、研究を進めてもらってきました。

〈主な著書・論文〉

論文 Pathways for School Library Education and Training in Japan. *Global Action on School Library Education and Training* (De Gruyter Saur) 所収 ほか

河野 有時 教授

研究分野 日本近代文学

研究テーマ 石川啄木の短歌を対象として、近代における短歌、短歌における近代について研究

明治以降、短歌という伝統的な詩形がどのようなアップデートを続けてきたかということについて考えています。石川啄木の短歌は、「近代」と「短歌」をつなぐ鏝のような役割を果たしてきました。短歌というのは小さな器ですが、それだけに、その表現や言葉を大切に取り扱ってもらいたいと話しています。そうすれば一首の世界の広がりを感じることができるからです。

〈主な著書・論文〉

単著『啄木短歌論』（笠間書院）ほか

朱 鳳 教授

研究分野 日中近代語彙交流史／東西文化交流史

研究テーマ 日中近代語彙の生成に影響を与えた諸要因を歴史、文化交渉史、言語史の視点から学際的に研究

近代以降の西洋文化の受容における新概念の翻訳、特に漢字翻訳語創出の諸要因を学際的に研究しています。「銀行、引力、病院」のようなことばは、日常的に使われていますが、研究の立場から見ると、これらのことばの創出には歴史的背景、人物、語彙構成のメカニズムなどと深く関わっています。歴史学、文化交渉学、言語学における複眼的な研究方法を指導します。

〈主な著書・論文〉

単著『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』（白帝社）／論文「漢訳聖書における音訳語の継承と創造」（『東アジア言語接触の研究』関西大学出版部）ほか

藤原 智子 教授

研究分野 食生活学

研究テーマ 思春期以後の生殖機能成熟期にある若年女性の食生活習慣と生殖機能障害の関係

20年にわたる女子大学生を対象としたアンケート調査によって朝食欠食と月経痛の因果関係が示されており、現在はこの知見を基にこの世代への科学的な食育プログラムの構築をめざして、さらに詳細な研究を行っています。本学大学院では5000人程度の大規模調査や少人数を対象とした実態調査（食事記録・ホルモン測定など）を通して、疫学的アプローチの方法を身につけ、得られた成果を適切に発表できるように指導していきたいと考えています。

〈主な著書・論文〉

論文（共著筆頭）Adolescent Dietary Habit-induced Obstetric and Gynecologic Disease (ADHOGD) as a New Hypothesis: Possible Involvement of Clock System. *Nutrients* 2020, 12(5), 1294 ほか

青木 加奈子 准教授

研究分野 家族関係学／家族社会学／ジェンダー論

研究テーマ デンマーク社会をフィールドに、親子関係やパートナー関係、育児や介護のケアについて

私が研究対象としているデンマーク社会では、世話を必要とする子どもがいても、女性は働き続けることが当然とされている社会です。そのような社会の中で、彼女たちは、職業キャリアと出産・子育て、あるいは親の介護をどのように両立させているのか、そしてそこにパートナーはどのように関わっているのかを、社会政策の視点だけではなく、家族メンバーの人間関係や彼らの生活全般を通して考えています。

〈主な著書・論文〉

共著『デンマークで子育てに関わるのは誰か ―職業キャリアと親業のはざまで―』『ケアと家族愛を問う 日本・中国・デンマークの国際比較』（青弓社、2022年）ほか

大風 薫 准教授

研究分野 生活経営学／生活経済学／ライフコース

研究テーマ 単身世帯が増加する社会における女性の経済的自立・持続的な就業に関する研究

晩婚化、未婚化の上昇などに見られるように単身で生活をする人が増加していますが、社会の制度は家族を形成した人生を送ることが前提になっています。また労働市場が不安定化する中で、女性は不利な就業環境に置かれやすい状況が続いています。そのような状況を踏まえ、女性が持続的に生活や人生をマネジメントするためには、いつ、どのような資源が必要なのか、どのような制度や支援が必要なのかについて研究し、考えています。

〈主な著書・論文〉

論文「中年未婚者の就業と生活リスクキャリア形成・転職・能力開発に注目して―」(『年金研究』No.15:17-51, 2021)ほか

鎌田 均 准教授

研究分野 図書館情報学

研究テーマ 情報と人との関わり及び、図書館の役割など

人がどのように情報を得ているのか、使っているのかに関心があります。人々が適切かつ効果的に情報を使いこなすことができる能力を向上するための、「情報リテラシー教育」の役割についても研究しています。図書館が提供するサービスには、人々の情報利用を支援する役割があり、その中で「エンベディッド・ライブラリアン」と呼ばれるサービス提供の形について近年研究をしてきました。

〈主な著書・論文〉

論文(共著筆頭) Understanding the information-seeking behavior of pharmacy college faculty, staff, and students: implications for improving embedded librarian services. *Journal of the Medical Library Association* 109 (2): 286-294 (2021)

中里 郁子 准教授

研究分野 キリスト教神学／聖書神学

研究テーマ 聖書、特に新約聖書のパウロ書簡および、キリスト教霊性の研究

新約聖書における「 Pneuma」の用法を中心とした本文の解釈によって聖書の聖霊論を探究しています。また、キリスト教の聖人の著作やロザリオなどのキリスト教信心と聖書との関係についても研究を進めています。授業では、聖書本文の修辞分析、物語分析などの聖書研究の多様な方法論を紹介し、聖書解釈やキリスト教文化の研究を指導します。

〈主な著書・論文〉

単著 *The Spirit in Paul's Apology: Exegetico-Theological Study of 2 Corinthians, Pars Dissertationis Ad Lauream In Facultate S. Theologiae*. Rome: Pontifical University of St. Thomas Aquinas(Angelicum) ほか

吉田 朋子 准教授

研究分野 西洋美術史

研究テーマ フランス絵画を中心とする18世紀ヨーロッパの美術

18世紀のフランスは前近代と近代の境界に位置しており、展覧会制度、美術コレクションや批評などが確立します。また、超越的な存在よりもむしろ個人の感性が注目されるようになっていきます。制度や心性の変化に芸術家はどう反応したのかに注目しています。美術史の根幹は作品を執拗に観察することと考えて研究・指導を行っています。

〈主な著書・論文〉

論文「フラゴナール『サン・クルーの祭』」(『フランス近世美術叢書Ⅱ』) あるいは書房) ほか

蜂矢 真弓 講師

研究分野 国語学

研究テーマ 被覆形・露出形 一音節語の多音節化

国語学とは、日本という土地に限定した、古代日本語の様相、或いは、古代から後の時代にかけての日本語の歴史的変遷を指します。大学院の授業では、中国で作られた文字である漢字を用いて、日本語を書き表すという複雑な環境からスタートした、国語学についての講義を行います。また、国語科教員免許取得希望者向けに、文語文法(古典文法)の授業も行います。

〈主な著書・論文〉

論文「一音節名詞ア・イ・ウ・エ・オ」(『上代学論叢』:93-110, 2019)